

資料1

平成29年度自己評価表

鳥取県立鳥取聾学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 確かな学力の定着を図るための学習指導の充実(学力向上) 2 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実(たくましく生きる力の育成) 3 心身の健康と豊かな自己表現力の育成(心身の育成)</p>
---------------------------	--	----------------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策
確かな学力の定着を図るための学習指導の充実(学力向上)	(幼) ○体験的な活動ができる環境や機会を設定する。	○経験が不足していたり、情報が入りにくかったりして、興味・関心がせいまい傾向がある。	○いろいろな事象に興味・関心を持ってかかわることで、考えて行動したり挑戦しようとしたりすることができるようになる。	○身近な事象に興味を持てるように、掲示物等を工夫する。 ○継続的に興味や関心を持てるような題材を工夫し、体験的な活動の場を多く設定する。 ○自分で考えることができるような教材の提示や声のかけ方を工夫する。	○廊下掲示は、行事と関連付けたクイズを掲示する等工夫した。幼児への意欲付けには効果的であったが、掲示を活用した言葉かけが少なかった。また、体験的な活動は多く設定することができたが、言葉を獲得するような支援がもう少し必要であった。活動の中で、自分で考える時間を十分とらないで教師が説明してしまうことも多かった。	○行事等で大切にしたい、獲得してほしい言葉を共通理解し、掲示や言葉かけに活かしていく。 ○子どもが自分で考えられるようにどのような発問をすれば良いか、学部で話し合い発問の工夫をする。
	(小) ○基礎学力が向上するよう、学びへの意欲を高める発問の工夫を取り入れた授業づくりにも努める。	○教室環境の工夫により学力が定着しつつあるが、長文を読んで内容を読み取ったり、文章を読んで質問に答えたりする等の読解力に課題がある。	○児童が主体的に学習に取り組む、文章を読んで考えたり質問に答えようとしたりすることができるようになる。	○主発問を的確に行い反応を予想して補助発問を工夫する等の支援を取り入れた授業づくりをする。 ○的確な実態把握ができるよう、実態に合った検査を実施する。 ○つまずきの記録から支援を検討する事例研究会を行う。 ○授業研究会を行い、一人一人の目標を達成できるように主発問や補助発問を検討する。	○絵画語彙発達検査を実施した。研究授業に向けて事例研究会を行ったり、主発問補助発問を検討する学部研究会を行っている。また、授業における個々の児童への支援方法などを話し合う機会を多く持っている。しかし、児童の長文への苦手意識があたり児童の実態に適した授業形態や具体的支援を模索中であたりし、児童が主体的に学ぼうとするまでには至っていない。	○国語学習で、劇化や動作化を取り入れたり、リライト文を工夫したりして授業を行う。実態に合った主発問・補助発問をさらに検討し授業を行う。外部講師を招き、授業研究会を行い、他学級でも活かせるようにする。
	(中) ○実態把握に基づく支援方法の共通理解と論理的思考力を育成するための支援の工夫に努める。	○基礎学力の定着が課題である生徒、思考力・応用力が課題である生徒と実態は異なるが、視覚的支援や体験的な活動を取り入れることにより意欲的に学習しようとする。また、共通して、教師に一つ一つ具体的に質問されたときは、ヒントをもらいながら答えようとする事ができるが、知っていることをまとめて説明したり、根拠に基づいて伝えたりすることを苦手としている。	○生徒が自分の思考を整理し、多面的に考えたり、根拠に基づいて説明できたりする。	○発達検査等の共通理解や行動観察等を通して生徒の実態把握を行い、生徒の認知特性に応じた思考を高める発問の仕方や支援方法の工夫に取り組む。 ○授業研究を行い、生徒の思考を促す授業ができていくかどうか検討する。	○支援計画の検討の際や支援方法について話し合う場の中で、授業で困っていること、支援の工夫などについて情報を共有することができ、授業の改善を図ることができた。 ○思考させる場面を授業の中でつくり、生徒は自分の考えに根拠をつけて発表できるようになってきた。 ○「なぜ」と問う発問を主発問とする授業を組み立て、考える時間を確保しながら授業を進めているので継続したい。	○教材を見合うなど、各教科で工夫していること、取り組んでいることなどについて意見交換する場を設定する。 ○授業研究会を行い、生徒の思考を促す授業ができていくか検証する。
	(高) ○自学自習の力をつけるために、個々の生徒に応じた学習指導法の改善・工夫をすることで、家庭学習の習慣化の徹底を図る。	○家庭学習では、内容や分量を自ら調整できない生徒の実態もみられる。日々の授業を活用しながら、指導法を工夫し、生徒の実態に応じて主体的に学習に取り組む姿勢を培う必要がある。	○家庭学習について、個々の生徒が学習時間と目標を設定し、継続して学習できるようにする。	○家庭学習の内容や時間の確認を継続して行い、生徒の学習意欲の喚起を促すとともに個に応じた家庭学習の仕方を具体的に指導する。 ○学部会や進路を語る会などを中心に情報共有し、個々の生徒のつまずきや特性に応じた課題を共通認識し、指導法を工夫する。	○家庭学習の習慣化は、定着しつつあり、生徒の自学自習に対する意識は高まりつつある。しかし、一部の生徒は、主体的、計画的な学習になっていない実態もある。各教科で生徒の実態に応じた家庭学習のあり方や具体的な指導法・支援方法の改善・工夫をすることで、更に生徒の学習意欲を高める必要がある。	○今後も授業の初めと終わりに家庭学習の内容や学習時間の確認・調整を継続的に行うとともに、補習の充実も図る。また進路の動機づけもふまえながら自学自習の必要性を意識させ、生徒の学習意欲の喚起を促す。進路を語る会や学部会等を通して、個々の生徒の実態に応じた課題を確認するとともに、更に自主学習を喚起する方法や学習規律を統一するなど工夫する。

<p>自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実 (たくましく生きる力の育成)</p>	<p>(支) ○家庭と連携し乳幼児のこたばの育ちを促す。 ○通級指導で難聴への理解を深め自己認識を高めるような指導や支援に努める。 ○個々のニーズに合わせた支援や情報提供に努める。 ○聴覚障がいへの理解が深まるよう啓発に努める。</p>	<p>○子どもへの接し方に支援の必要な親子があり、伝わりやすい話しかけについての意識を高める必要がある。 ○年齢に応じた自己認識が育っていないため問題解決に向けた行動を起こしにくい児童生徒が多い。 ○支援会議等で本人・保護者・担任との間に考え方や意識の違いが見られ、ニーズの把握が難しい場合がある。 ○医療との学習会で情報共有をしたり、研修会の講師として福祉や教育との連携を図っている。</p>	<p>○子どもの気持ちに寄り添いながらかかわることのできる支援を学び実践につなげることができる。 ○場面に応じて学んだことを活かし問題解決をしようとする。 ○難聴に関する研修を行い様々なニーズに対応できるようにする。 ○関係機関と連携し、県内の聴覚障がい児に関する情報交換ができる。</p>	<p>○担当者がかかわり方のモデルを示すとともに、視覚的な支援方法を具体的に示す。 ○通級指導の連絡帳を通じて担任や保護者と情報を共有し、課題に対して共通の認識が持てるようにする。 ○難聴児にかかわる関係者に対し校内研修会への参加を募ったり情報交換の場を提供したりして、難聴への理解を促す情報発信をする。 ○聴覚障がいに関するリーフレットの配布や啓発活動を行う。</p>	<p>○担当者の支援で子どもに変容が見られた点について保護者に丁寧に伝え、家庭で実践する場合の具体的な方法を提案している。 ○通級指導中の児童の様子を連絡帳で担任や保護者に伝え共通理解するようにしている。 ○校内の専門性に関する研修会への参加を呼びかけ参加しやすいよう時間設定を考えるが、参加者が少ない。 ○啓発用リーフレットを新たに作成して関係機関に配布し、啓発活動を進めている。</p>	<p>○家庭での様子を保護者から聞き取り、それぞれの家庭に即した個別の支援について提案する。 ○通級指導場面以外での個々の児童の様子を把握し指導に活かせるよう、学校や家庭での様子も記入してもらうよう随時働きかける。 ○引き続き本校での研修会を案内するなど情報発信を続ける。 ○未実施の関係機関への啓発を行う。</p>
	<p>(幼) ○幼児の実態に応じ、様々な人とかかわることができる場を設定したり、かかわり方を支援したりする。</p>	<p>○基本的な生活習慣や生活のきまり、遊びのルール等がまだ身に付いていない場面も見られるが、他者とのかかわりを好む。</p>	<p>○同年齢の園児とのかかわりを通して、集団での生活のきまりや遊びのルール等を身に付け、友だちと楽しくかかわれるようになる。</p>	<p>○友だちとかかわる中で、ルールの定着を図ったり意欲を高めたりするように学校間や居住地域での交流および共同学習の場を設定する。 ○保護者研修会を実施し、子どもたちへのかかわり方について共通理解を図る場を設定する。</p>	<p>○居住地での個人交流だけでなく近隣の保育園との集団交流を行った。集団の中で友だちとかかわって遊ぶ様子が少しずつ増えてきた。また、かかわりの中で自分の気持ちを整理できるようになりつつある。地域の方とのちまきづくり交流では、やりとりをしながら作る様子も見られた。 ○子どもたちへのかかわり方について、保護者と日々の送迎時や懇談の中で話題にはしているものの、十分ではない。</p>	<p>○今後も集団交流等を計画して行う。交流で学んだ活動やルールを守る工夫等、学校の活動にも取り入れて活かしていく。交流で子どもが困っている時の支援の仕方についても、学部で話し合う。 ○継続して日々の懇談等で子どもたちへのかかわり方について話をしながら、さらに保護者研修会の中で、機を捉えて話をしていく。</p>
	<p>(小) ○基本的な生活習慣の定着を図り、社会生活に向けて望ましい習慣や態度を育てる。</p>	<p>○ルールを守ろうとする姿が見られるようになってきているが、基本的な生活習慣、学校生活のきまり等について自ら判断して守ろうとすることは不十分であり指導が必要である。また、社会生活におけるルールなどは未習得であることが多い。</p>	<p>○基本的な生活習慣が定着し、集団活動や社会生活においてきまりやルールを自ら守ろうとする。</p>	<p>○合同学活での集団活動等でモデルを示したり、どう行動したらよいか気づけるような声かけをしたりする。 ○場面をとらえて適切な行動ができるよう声かけを行う。</p>	<p>○道徳などの時間を使ってきまりやルールについて学習した。また、ルールを守れなかった時、その場で声かけすることによって、改めることができるようになってきている。しかし、定着や自律までにはなっていない。特に廊下を走ってしまう場面が多く見られる。</p>	<p>○学習の中でロールプレイ等で様々な場面を経験できるようにしたり、子どもたち同士で話し合う機会を持つたりする。また、視覚的に振り返ることができる工夫をしたい。(カード、シール等)できた時にはその場で称賛し定着することができるようにしたい。</p>
	<p>(中) ○進路に関する学習や職場体験学習の充実を行い、生徒自らの意思で進路を決定できる力を育てるとともに、社会生活に必要なマナーやルールについて学習する機会を設定する。</p>	<p>○将来就きたい職業や高等部への進路をはっきり決めている生徒、まだ将来像が描けず次の進路先についても決めかねている生徒と実態は異なる。 また、社会生活に必要なマナーやルールについても言葉づかいや行動について一人一人の実態や課題が大きく異なっている。</p>	<p>○進路に関する学習を通して、生徒自らの意思で進路を決定する。 ○職場見学・職場体験学習等を通して、社会生活に必要なマナーやルールについて知り、実践しようとする。</p>	<p>○体験入学などの進路に関する学習や職場体験学習の充実を図る。 ○職場体験学習や進路に関する学習等を通して、社会生活に必要なマナーやルールが身につくようにする。</p>	<p>○職場見学や学校見学、居住地校交流を積極的に行い、進路の参考にしたり将来像について考えたりし、中学部卒業後の進路について、自らの意思で決定しつつある。 ○職場体験学習を通して、社会生活に必要なマナーやルールについて具体的な場面に即して指導できた。</p>	<p>○職場で作業する際の報告の仕方など具体的なことについては、どこまで求めるかなど学部で共通理解を図って指導を行う。 ○職業については、各教科等の中でも折に触れて「働く」ということと合わせて指導していく。</p>
	<p>(高) ○常に自立と社会参加を意識した生徒指導の徹底を図り、課題対応能力やキャリアプランニング能力等を育成し、規律ある生活習慣を身につけられるようにする。</p>	<p>○多くの生徒が落ち着いて生活できている。しかしながら、自分で考えて行動する習慣が身につけていない現状もみられる。そのため、自立や社会参加に向けてさらに自ら考え行動する生活習慣の確立を目指す必要がある。</p>	<p>○将来の社会生活を意識し、規律(時間・言葉づかい)を守り、自ら考えながら学校生活を送る。 ○社会自立のための自己の課題を知り、主体的に解決しようとする。</p>	<p>○生徒が課題意識をもって生活できるように、全教職員で共通認識し、指導を周知徹底する。 ○生徒版段階表や諸検査をもとに実態把握し、生徒一人一人の進路を考えた授業の工夫をする。</p>	<p>○基本的な生活習慣は確立されつつあるが、一部の生徒で体調や精神面から時間規律が確立されていない場面も見られる。更に将来の社会生活における個々の生徒の課題を意識させながら、生活させていく必要がある。 ○生徒版キャリア自己評価表をもとに、自己を見つめる機会をつくることができ、身近な課題を目標に設定する意識も深まりつつある。また、自分だけで振り返りが難しい生徒については、教師と共に考えることで良かった点や改善したい点を考えることができるようになった。</p>	<p>○更に家庭や寄宿舎と連携を密にして、生徒の状況に関わる情報を共有する必要がある。学部研等を通して、検査の活用等教職員の共通理解を図るとともに、自立活動等において、自己の特性をみつめたり、就労や進学という具体的な場面から今の課題を再度考えさせていきたい。 ○一人一授業等で授業研究を進め、互いに学び合いながら更に教職員の専門性の向上を図る。</p>
<p>心身の健康と豊かな自己表現力の育成 (心身の育成)</p>	<p>(幼) ○心の動きを大切にし、表現力を高める指導を工夫する。</p>	<p>○自分の思いを伝えたい気持ちはあるが、その気持ちを伝えることが難しい場面が見られる。</p>	<p>○朝の会の伝え合い活動で幼児が思いを表出できるようになる。</p>	<p>○幼児の思いをくみ取り、表現できるように支援する。 ○話しかけが理解できるように実物や絵等を提示する。 ○話し合いの場等を設定し、自分の思いを伝えたり、友だちの思いをくみ取ったりする場面を設定する。</p>	<p>○話を聞く時の姿勢、質問をしたり答えたりする時の言い方を伝えることで、自分の思いを少しずつ表出できるようになりつつある。また、実物や絵などを使って言葉をおさえることで、話の内容を理解して聞くことができた。しかし、話し合いをする機会が少なく十分ではない。</p>	<p>○他学級との合同朝の会をする等、実態に応じて話し合う場を意図的に設定していく。友だちの思いをくみ取った言葉かけを行い、子ども同士で話し合いやすい支援を行う。</p>

<p>(小)</p> <p>○友達との活動を通して自分の思いや考えを伝え合え、相手の話を理解できる力を育てる。</p>	<p>○自分の考えを友達や先生に主体的に伝えようとする場面が増えている。</p> <p>○自分の思いを周りの人に伝えようとする気持ちはあるが、言葉を正しく使って表現することが未習得である部分がある。</p> <p>○友達の話最後まで顔を見ながら聞いて理解することはまだ難しい。</p>	<p>○自分の経験や考えを、様子や気持ちを表す言葉を使って詳しく伝えようとする。</p> <p>○相手の話を最後まで聞き、自分の考えを伝えようとする。</p>	<p>○学習時間内では、相手の顔を最後まで見て話を聞く、はっきりと相手に自分の思いを伝える等の学習ルールを徹底する。</p> <p>○学級活動等の集団活動において、友達や先生と伝え合う学習場面を多く設定する。</p> <p>○帰りの会等において、ヒントになるような声かけをしたり、気持ちを表現する言葉カードを掲示したりする。</p>	<p>○帰りの会等で自分の思いを伝えるコーナーを作ることで、自分の言葉で伝えることができ始めた。また、友達や先生の話を見て聞くよう、声かけを度々行ってきた。自分の思いを聞いて欲しいという気持ちが強く意欲的に発表することはできたが、相手の話を聞く時には最後まで聞こうとせず、途中で興味がなくなると視線をそらせることが多く、課題となっている。</p>	<p>C</p>	<p>○話し合いのルールを再確認し徹底できるようにしたい。また、話をしたり聞いたりすることの楽しさ、思考が広がったり深まったりすることの大切さを伝えていきたい。声かけ、自己評価、称賛等の支援も続けていきたい。</p>
<p>(中)</p> <p>○外部専門家によるワークショップや弁論、報告会、交流活動等を通して自己表現力を育成する。</p>	<p>○自分の思いは伝えられるが、相手の気持ちや立場を考えずに一方的であったり、自信を持って発言できなかつたりするなど、一人一人の実態や課題は異なる。報告会などでは、事前の練習を積み重ねることにより、自信を持って表現できつつある。</p>	<p>○自分の考えを自信を持って表現できる。</p> <p>○相手の立場や場に応じた表現ができるようになる。</p>	<p>○自分の思いを自信をもって豊かに表現できるよう、様々な報告会、弁論大会や外部講師によるワークショップなどの機会を設定する。</p> <p>○話し合いの際には、「話し合いのオキテ」を意識させ、相手にわかるように表現できるようにする。</p>	<p>○鳥の劇場の指導により、相手の考えや気持ちを意識しながら、自分の考えを豊かに伝えることを学び、自己表現する態度を養うことができつつある。</p> <p>○修学旅行や職場体験、学校祭では合同学習を行い、話し合える場面を設けた。お互いの意見を聞きながら、合意できる着地点を見つけようと努力している様子が見られる。</p> <p>○口頭での発信だけでなく、新聞を作成するなど書いてまとめる形の発信もしている。</p>	<p>C</p>	<p>○引き続き、学校、学部の行事、授業の中で自己表現する場や機会を設定し、他学部の教職員にも見てもらい評価をしてもらう。</p>
<p>(高)</p> <p>○現場体験学習等を活用し、社会を意識した体験的学習を充実させるとともに、弁論大会や帯自立活動等を活用し自己表現力を育成するなど、コミュニケーション力を身につける。また、社会自立のために自分の心身の健康と向き合うことができるようにする。</p>	<p>○実際に職場の人間関係を円滑にしたりするためには、コミュニケーション力が必要であることは少しずつではあるが生徒に理解されつつある。更に自己表現力を高めるなど自ら積極的にコミュニケーション力を身につけるなどの実践力が必要である。また、自立や社会参加に向けて、自ら体調管理に努めることも課題である。</p>	<p>○現場体験学習等で相手や場に応じて、適切にコミュニケーション力が向上する。</p> <p>○帯自立活動をはじめ、弁論大会やステージ発表を通して、表現力が向上している。</p> <p>○自分らしく生きるために心身の健康に関する意識が高まる。</p>	<p>○具体的な場面を想定して事前に練習を積み、実際の場面で活かすようにする。</p> <p>○帯自立活動を活用し、状況に応じた日本語の使い方（謙譲語・尊敬語）や意味の学習を積み重ねることで、一人一人の日本語力を伸ばす。</p> <p>○心身の健康を保つため、自立活動を中心に就労や一人暮らしを想定し、自らストレスに対処する方策等について考える場面を設定する。</p>	<p>○職場の方の評価と自己評価とにズレがある生徒の実態もあり、職場見学や現場体験学習で明らかになった個々の生徒の課題について、更に学校生活の場で継続して指導する必要がある。</p> <p>○自立活動を通して、進路先を意識しながら状況に応じた言葉づかいについて、学習を積み重ねている。</p>	<p>B</p>	<p>○自立活動等を活用し、自分の気持ちを丁寧に言葉に表して伝えること等、更にコミュニケーション力を身につける必要がある。自分が話すことを優先し、相手の気持ちを受け止めることができない課題もあり、共通理解を図りながら指導していきたい。</p> <p>○自己表現力については、弁論大会等を利用して多くの人々に見てもらい称賛してもらうことで、生徒が大きな自信をもつ取り組みとしたい。</p> <p>○今後、具体的な場面で、ストレスに対処する方策に視点をあてた学習を取り組んでいきたい。</p>